

テレワークの種類	在宅勤務	モバイルワーク	サテライトオフィス	狙い	生産性向上	移動時間短縮	非常時の事業継続	顧客満足度向上	WLB向上	オフィス費用削減	通勤弱者対応	創造性向上	優秀な人材確保	省エネ・CO2対策
	○	○			○	○	○		○	○	○		○	○

企業の概要

社名	株式会社チェンジウェブ	都道府県	東京都
業種	サービス業	従業員数	21名
事業概要	経営コンサルティング、人材育成研修、コーチング、講演・執筆、託児・教育関連事業 等		

テレワーク実施概要

雇用上の規定	就業規則に規定
テレワーク推進担当部門	全組織
テレワーク対象者	正社員、業務委託社員
実施者数	21名
実施日数	月20日(保育園現場担当除く)

テレワークの導入・拡大の経緯

- ・クライアント訪問先近辺での仕事が多いため、移動やアポの間に社員同士がカフェ等で打ち合わせを行っている(個人機密情報規定整備済み)。
- ・ワーキングマザーが7割を占めるため、子どもの病気対応時などにも業務が継続できるように在宅勤務やテレワークの導入、拡大を行っている。

テレワークの概要・特徴

- ・オフィスには1~2名が常駐し、管理本部(Internal)業務を行っている
- ・BtoB事業部は、クライアント訪問先近辺で仕事することが多いため、移動やアポの合間はお互いのクライアント訪問先近くのカフェなどで、社員同士がミーティングを行っている。
- ・テレワーク実施のために、社員同士の状況を共有する文化育成を行っている。勤怠管理システムで申告(実施時間と作業内容と場所)し共有する。Googleカレンダーにて社員同士の予定を共有する。など。
- ・月2回、テレワークの多いBtoB事業部全社員が集まり対面の情報共有を行っている。対面参加できない社員もSkypeなどで場の共有を行っている。
- ・月2回対面ミーティングの間で進捗していくプロジェクトなどの情報共有は、主にSNSを利用して情報格差が出ないような環境を整えている。
- ・テレワークが多い分、顔を合わせないで作業することが多いので、SNSやメールでのコミュニケーションの取り方には十分注意を払うような文化育成を行っている。例えば、相手の状態を考えたうえでの(想像力)対応、相手に敬意を払った対応を意識している。

テレワーク導入の効果(経営にもたらした効果、その他効果)

- オフィスコストの削減
社員・業務委託合わせて19名の社員全員がオフィスに常駐しているわけではない。テレワークにより、オフィススペースが1/3程度と、水道・光熱費の削減効果がでている。
- 育児・介護中社員への働きやすさ提供と、人材確保
子育て中の女性社員が7割以上を占めている当社では、子どもの体調不良や、保育園のお迎え、また学校の行事への参加などがある場合に、時間を調整してテレワークを取り入れている。一日8時間という勤務が基本だが、フレックスタイム制や事業場外みなし労働時間制、とそれぞれの社員で時間帯は申告の上、変更可能となっている。
例えば、9時から14時までオフィスで勤務し、小学校のお子さんが帰る頃に15時から18時まででは自宅勤務していたり、家族の通院がある場合は1日在宅とし、8時から10時まで仕事、その後通院し、帰宅後18時まで勤務、など、ライフの時間を増やすことができている社員も多い。通勤ラッシュのストレス緩和にもつながっているため、社員の働き方満足度は高い。テレワーク導入後の勤務時間・場所の自由度の高さから、優秀なワーキングマザーの人材確保にも効果がでている。